

平成 31 (令和元) 年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属高等学校天王寺校舎

1 附属高等学校天王寺校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員504人(1学級42人)

(4) 幼児・児童・生徒数

490人 (男子241人・女子249人 平成31年4月1日現在)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 0人, 教諭 28人(うち臨時的雇用8人, 再雇用職員2人, 育児休業中1人), 非常勤講師 12人

事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 2人, 臨時用務員(調理師) 0人

2 附属高等学校天王寺校舎の特徴

本校は、開校以来附属天王寺中学校とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。また、平成27年度SSH第2期の指定を受け、現在SSHの目的にそった教育研究を継続している。

生徒の自主性を重んじ、多様な経験と活発な議論を通じて、時代を問わず通用する生きる力と、自律的に責任を持って行動する力を育てることを目指している。

3 附属高等学校天王寺校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属高等学校天王寺校舎の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属高等学校天王寺校舎の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、自治会やホームルーム等の集団における、生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取組を行う。
3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属高等学校天王寺校舎令和元年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と「生きる力」を育てる活動を各教科・分掌で工夫し, 実践する。また, 自治会やホームルーム等の集団における, 生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 生徒の学力向上と, 自律的な学習・生活習慣 の確立を進める。	思考力, 表現力, 探究力, 想像力を身につけるため, 様々な言葉の力を用いた活動を行う。(国語)	特に思考力, 探究力を養う授業に取り組んだ。	中学校でのディベートの取組をふまえて, さらに論理的思考力を高める授業を実践する。	B	特になし	B	特になし
	中高を通じた到達目標を設定し, それに向けて主体的・対話的な学びを取り入れた, 5領域統合の言語活動を実践する。(英語)	校種, 学年に応じた到達目標設定, 授業における具体的な手立てについて協議している。	新学年開始時において小中高一貫の到達目標, 評価規準を提示できるよう協議を進める。	B	特になし	A	特になし
	課題解決的な学習過程を設定する中で自主自律的な行動能力を高める。(保体)	積極的な姿勢の生徒が多いこともあり, 自主的な活動を取り入れた授業がうまく機能していた。	頑張りすぎてけがをするなどの事例が見られ, セルフコントロールを教える必要がある。	A	特になし	A	特になし
	創作的な課題を設定することで, アクティブラーニングを進める。(情報)	目標を十分に達成した。	課題解決学習に偏らない授業が必要である。	A	特になし	A	特になし
	学習環境について, 中高間の調整を円滑に行う。(教務)	時間割, 使用教室の調整についてはうまく情報交換できた。	中高の教務の枠組みについて, 協働で運営できる内容を考える。	B	特になし	B	特になし

(2)互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に発揮させる。	議論や発表の機会を授業で設定するとともに、意見発信能力の向上と、思考の質的変容を促すため、中高6か年の発達段階に応じた目標・評価規準を作成する準備を行う。(社会)	意見を発信する能力の向上について、教科内で議論した。発達段階に応じた目標設定は、中高それぞれの範囲内にとどまったものしかできなかった。	引き続き6か年を見通した目標や評価基準の作成に取り組む。	C	特になし	B	特になし
	生徒実験を通して個々の生徒の力を発揮させるとともに、生徒相互の意見交換を通して協働的態度を育成する。(理科)	実験等、少人数班での活動を通じて、協働的な態度の育成ができた。	改修工事により設備が新しくなることを活用し、取組の質を高める。	A	特になし	A	特になし
	中学の自由研究と、高校の課題探究学習との情報共有を図る。(教務)	中学の自由研究の優秀者が、高校のSSH発表会で招待発表した。	課題研究に関する方法論や、生徒の実績の情報交換を進める。	B	特になし	A	特になし
	パート練習の中で、発見と共感を通じて互いに高めあう授業を展開する。(音楽)	生徒が主体的にパート練習を行い、互いに課題を発見しあいながら表現について探ることができた。	男女での進度の違いが生じ、それによる指導の偏りができることを改善する。	B	特になし	A E	特になし
	自治会活動の様々な場面での議論を通して、自他を尊重しつつ方向を選択する力を育てる。(生指)	自治会活動の指導を目的通りに進めた。	議論の活性化を進める。形式ではなく内容を重視する姿勢が育つよう指導する。	A	特になし	A	特になし
	課題や問題の発見・提起を主体的に行い、さらに対話的学習を進めるための方法と内容を学校として学び、成果をまとめる。(研究)	「深い学び」と「評価」の理論を理解し、教科の特質をふまえて学習を深めた。学校全体としての「評価の枠組み」作りは実証的な面が弱かった。	学校の組織力をもとに研究推進するために「共通の土俵」作りを、より具体的、実践的に進める。	B	特になし	B	特になし
	中高6年間の人権教育カリキュラムの作成について検討し、作成を進める。(健人)	性教育やジェンダー問題などの人権問題を相互に関連付けて研修を実施した。中高の流れを見通した実践とはならなかった。	中高6か年で共通するキーワードを見つけて人権教育に取り組む。	C	十分工夫して取り組んでいるのでは、という意見が出た。	A	6か年の流れをより意識して取り組む。
	様々な国についての知識を獲得し、互いの文化を尊重し平和な社会作りに貢献できる生徒の育成のためにPeace Projectを実施する。(国際)	実施した。有志教員グループによる継続的な活動になった。ASMSA 生徒たちは帰国後、日本で行った活動を地域に報告するなど社会に広めることができた	今年度の対象生徒をSSH 選択者としたが、今後はテーマに関心のある生徒の有志で実施する。また、広島だけでなく、テーマについて議論し考えを共有する。	A	特になし	A	特になし

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取組を行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。	カリキュラム委員会における新教育課程の作成を支援する。(教務)	カリキュラム委員会に教務部代表が参加している。教育課程編成の議論の開始は予定より遅れた。	カリキュラムについての教務的観点を委員会と共有し、編成を進める。	C	特になし	B	特になし
	多様な新進路選択に役立つ情報を生徒に提供する。模試の実施、オープンキャンパスの案内、入試情報の提供や進路講演会の開催を行う。(進路)	情報提供は十分にでき、担任間の共有も進んだ。予定した行事等は計画通り実施した。	生徒の多様なニーズに応じた情報提供を進める。模試結果の分析を進める。	B	特になし	B	特になし
	他国の生徒とのかかわりの中で自分の将来の役割を考え、それに向けた活動ができるよう支援する。(国際)	ホストファミリーを公募し、幅広く生徒の交流の場を作った。将来への視野が広がった。保護者の協力も多く学校全体の交流ができた。	交流行事だけの国際理解教育ではなく、学年企画に国際交流関係の講演などを入れていくなどの工夫を行う。	A	受け入れ家庭への指示や連絡が不十分で混乱した、という意見があった。	A	ホームステイ受け入れ家庭への丁寧な情報提供を進める。
(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	授業における実験実習における安全確保について、教員側の意識向上を図る。(理科)	大きな事故は発生しなかった。改修工事に向けて安全面に配慮した計画、行動ができた。	生徒に安全意識を高めさせる取組を計画、実施する。	A	特になし	A	特になし
	老朽化している施設設備、器具等の点検や補修を進める。(保体)	前年度末に指摘されていた体育館雨漏りは修繕した。体育倉庫の整理整頓が進んだ。	定期的な点検を継続する。	A	特になし	A	特になし
	前年度の防犯マニュアルの改訂に続き、防犯計画を危機管理マニュアルとしてまとめる。扶南訓練等で防災、防犯関係の安全意識を高める。(健人)	危機管理マニュアルを改定した。また、避難経路の見直しや、防災訓練の改善に取り組んだ。	マニュアルにある、実用的でない点を改善する。防災において情報発信方法や伝達方法に発見された問題点を改善する。	A	特になし	A	特になし

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。	社会科における「見方・考え方」「思考・判断」を評価する方法について、大学教員と連携して検討を進める。(社会)	教科での議論の内容を、教育研究会で発表、発信できた。研究協議を通じ議論の幅を広げた。	大学教員との連携をさらに密にし、多様な観点についての指導を受ける。	A	特になし	A	特になし
	教科会議や小中高研究部会での情報交換を進める。課題研究に対する支援を教科として強める。(理科)	年間を通じて情報交換を密にでき、生徒の学びを深めることができた。課題研究の担当生徒を増やすことでサポートの範囲を広げた。	さらに取組を進める。	A	特になし	A	特になし
	中高の情報共有と連携により、筆記試験だけによらない多様な評価方法を検討する。(英語)	研究推進日以外には、中高合同での教科会等を行わず、具体的な取り組みは進まなかった。	中高で同一テーマを設定し、授業実践で連携するとともに。教科会での情報交換を進める。	C	特になし	A	特になし
	「主体的・対話的で深い学び」と「評価」との一体化をテーマにして研究を進める。定期考査制度の変更による効果と課題をまとめる。(研究)	授業実践を通じた「深い学び」の実現について、教育研究会で提示した。定期考査の変更に伴い評価方法を多様化させており、その効果の検証に踏み出した。	研究推進日等を通じて、中高一貫や中高連携について共通理解を深め、共通基盤の上に各教科の独自性を示すよう取り組む。	A	特になし	A E	特になし
(2) 社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取組を進める。	新指導要領に示された5領域をバランスよく育成し、外国語コミュニケーションについての見方、考え方を働かせる機会を増やした授業を行う。(英語)	教科書で読んだ内容をベースとして口頭での意見交換やスピーチ、プレゼン、英作文を行ったり、独自の副教材を用いた実践で5領域を統合したりした。	研究会等での研修や、授業見学、意見交換等を通じて各教員が研鑽を深める。	A	特になし	A	特になし
	SSHの国際交流プログラムを通じて、訪問プログラム参加者だけでなく、学年全体で受け入れプログラムを実施する。(国際)	米国ASMSA、タイ国PCSHSPの来日時のプログラムは計画通りに実施したが、日程や他行事との関係により学年の全生徒が関わるものとはならなかった。	年間行事全体の中での位置づけを再確認し、関わる教員、生徒の範囲を検討する。	B	特になし	A	特になし
(3) 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・地域活動での地域との連携を進める。	今後の教科指導の在り方や、研究のテーマ設定の検討のため、新指導要領に関する研究を進める。(社会)	中高それぞれの指導要領について学習し、今後の指導の在り方を検討できた。	中高の連携を進めるとともに、指導要領の研究を深める。	C	特になし	B	特になし
	研究会への参加、教科内での授業研究を定期的に行う。(保体)	研究推進日を利用し、中高での授業内容・目標を共有した。研究交流会で成果発表する予定であったが、中止となった。	外部の研究会への参加が前年度より減ったのを改善する。	A	特になし	B	特になし
	学校の先進的な取組を、学校以外のメディアを通じて発信する。(全体)	小中校合同の宿泊避難訓練取材してもらい、新聞の特集記事に掲載された。大学の広報室を利用して、ピースプロジェクト等の取組を紹介した。	さらに広報活動を進める。	A	特になし	A	まず生徒や保護者に取組を周知するよう努める。

学校関係者評価における意見	<ul style="list-style-type: none">・中学と比較して、清掃の状況がよくない。・外部に対する学校の活動や成果の発信は大切であるが、生徒や保護者が自分の学校で行われていることについてもっと関心をもってもらい、さらに附属が何を求められているかということについての理解もしてもらう必要がある。・子供に、学校が取り組んでいることをもっと伝え、それが保護者の耳に入るようになれば、学校への理解や共感も深まるのではないかな。
---------------	---

